

## 家 庭

### 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

#### (1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

各教科等において、「物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程」を重視した深い学びの実現を、教科等の特質に応じて図ることを通じて、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにすることが重要である。

職業に関する専門教科では、従来から教科の目標に資質・能力を構成する要素のうち、「倫理観」、「合理性」等が重要な要素として学習指導要領に明示されており、今回の改訂では新たに「職業人として必要な人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「産業の振興や社会貢献」、「協働的に取り組む態度」を育成することが明示された。

専門教科「家庭」においては、少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上と社会の発展を担う職業人を育成するため、生活産業とのつながりを意識して学習内容等を改善・充実させる必要がある。

その際、単元の中で生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、専門的な知識と技術などを相互に関連付けてより深く理解させるとともに、家庭や地域及び社会の生活の中から問題を見い出して解決策を構想し、計画を立案、実践、評価、改善し、新たな課題解決に向かう過程を重視した、探究的な学習活動を充実させることにより、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることとしている。

また、専門教科「家庭」の学習においては、少子高齢化への地域の子育て支援や高齢者の自立生活の支援への対応、食育の推進や調理師養成への対応、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応、グローバル化を踏まえた生活文化の伝承・創造への対応など、衣食住、保育等のヒューマンサービスなどに関わる生活産業のスペシャリストとして必要な資質・能力の育成を目指している。

そのため、地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどといった工夫により、授業の改善を図ることで、生徒の学びをより一層深める必要がある。

#### (2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

指導と評価の一体化を図るためには、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが大切である。すなわち、平成30年に改訂された高等学校学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通し、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

【専門教科「家庭」評価の観点及びその趣旨】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

専門教科「家庭」においては、学習評価を進めるに当たり、指導項目や単元の設定について、生徒の興味・関心や進路、学科の特色に応じて各学校で工夫することが求められている。探究的な活動を取り入れた単元の評価では、観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価である「記録に残す評価」だけでなく、学習状況を見取り、生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導、支援を行う日常の学習改善につながる評価である「指導に生かす評価」が重要となる。

なお、「指導に生かす評価」を実施するに当たっては、ICT機器をはじめとしたツールを効果的に活用することで、生徒の学習状況を即座に把握し、支援が必要な生徒の助言を行うことができるだけでなく、教師の授業改善にも繋げることができる。

また、評価に当たっては、題材や内容のまとまりごとに三つの観点をバランスよく見取ることができよう工夫することが必要である。

【一連の学習過程の中における効果的なICT機器の活用方法】



## 2 指導と評価の計画例

### (1) 住生活デザイン「住空間の構成と計画」の計画例

科目「住生活デザイン」は、「家庭総合」、「家庭基礎」の学習を踏まえ、更に専門的な学習を進める上で、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな住生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成することが求められている。

科目「住生活デザイン」において、快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し、豊かな住生活の実現を目的とした授業の計画は次のとおりである。

#### ア 単元の目標

- (ア) 安全や環境に配慮した住居に必要な住生活の計画・管理をするための技術を身に付け、住居を構成する平面図についての知識を深めることができる。
- (イ) 家族の生活やライフステージに応じた持続可能な住居の計画について理解し、主体的に住生活を営む者として必要な情報を収集・整理しているとともに、自らの住生活について考察し、改善することができる。
- (ウ) ライフステージや住環境に応じた住生活について自ら学び、自らの住生活の考察・改善に意欲的かつ関心をもって取り組むことができる。

#### イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全や環境に配慮した住居に必要な住生活の計画・管理をするための技術を身に付けている。 住居を構成する平面図について理解している。	家族の生活やライフステージに応じた持続可能な住居の計画について理解し、主体的に住生活を営む者として必要な情報を収集・整理しているとともに、自らの住生活について考察し、課題を解決しようとしている。	ライフステージや住環境に応じた住生活について自ら学び、自らの住生活の考察・改善に意欲的かつ関心をもって取り組むもうとしている。


#### ウ 単元の指導と評価の計画（6時間）

次 【時間】	ねらい、学習活動等（学習活動の概要、主発問、指導上の留意点）	評価の観点		
		知	思	態
1～2次 【2時間】	<b>【指導のねらい】</b> 地域による住生活を比較し、今後の家族や自分の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 <b>【学習活動】</b> 北海道の家の特徴についてまとめ、住居の安全性や地域ごとの特徴を学ぶ。住空間を構成する要素について自らの住まいと照らし合わせ、各ライフステージや将来の生活環境における、住みよい間取りや空間について考えを深める。		○	○
3次 【1時間】	<b>【指導のねらい】</b> 住生活の計画に必要な平面図を読み取るための技能を身に付け、ライフステージや家族に合った住生活の重要性を理解する。 <b>【学習活動】</b> 平面表示図記号等の平面図を構成する要素を学び、賃貸アパート等のチラシに掲載されている実際の間取りを活用し、生活スタイルに合わせた住まいについて考察する。	○		
4～6次 【3時間】	<b>【指導のねらい】</b> ライフステージや生活環境に応じた住生活について情報を収集・整理し、自分が住みやすい・社会が暮らしやすい住生活について考える。 <b>【学習活動】</b> グループでライフステージや家族のニーズに合った住生活には、何が必要かを考え、視覚化するためのチラシを作成し、グループごとに発表する。他のグループの意見を聞き、自分に合った住空間について、改めて考え、今後の生活に生かすための工夫を検討する。		○	○

地域の気候や特徴に着目させ、自らの住生活を考える際の材料とする。

Google classroomを活用し、単元末の振り返りシートで見取る。  
※オ(1)参照

エ 学習指導案（4～5時間目／6時間中）

過程	学習活動	●指導上の留意点・準備物	■評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図の読み取りについて振り返らせる。</li> <li>本時のねらいの確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●例示した平面図から、どのライフステージでどのような生活をしている人の部屋であるか、設備や家具はどのようなものが必要であるかを読み取る。</li> </ul>	<p>【生徒の主体性を促すための教師の助言例1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが成長した際に部屋はどうするか。</li> <li>・高齢者や子どもが安全に過ごすために必要な住環境はどのようなものがあるか。</li> </ul>
展開1	<ul style="list-style-type: none"> <li>住生活の考察・計画について説明</li> <li>発表資料の作成方法についての説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表例を示す。 【ライフステージ及びライフスタイルの例】</li> <li>・青年期(18歳男性)</li> <li>・寝室は居間と別がよい。</li> <li>・場所は公共施設の近くがよい。</li> </ul>	
展開2	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで最適な平面図について話し合う。</li> <li>選んだ平面図においてさらに工夫できそうな点を話し合う。</li> <li>発表に向けて役割分担し、チラシや発表原稿を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループごとに3つのライフステージの担当を決め、5つの平面図の中から1つを選択させる。 (のり、はさみ、ワークシート、色鉛筆)</li> <li>●自分の決めたライフステージから生活環境を想像し、それに見合う家具等をICT端末を活用して情報収集するよう促す。</li> <li>☆設定したライフステージ</li> <li>・青年期 (20代女性単身)</li> <li>・壮年期 (夫婦2人、娘、息子)</li> <li>・高齢期 (高齢夫婦)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■【思考・判断・表現】</li> <li>・快適で安全な住生活に必要な情報の収集や整理ができている。</li> </ul> <p>→発表資料、ワークシート</p>
展開3	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> </ul>  <p>【地域とのつながりを意識した授業改善例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の建築・建設業者等から、発表参観後に発表に対する助言をいただく。</li> <li>・不動産等、地域の住まいに関わる方から、発表参観後に住まい選びのポイントについて助言等をいただき、理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1グループ2分(移動含め) &lt;発表に盛り込む内容&gt;</li> <li>①検討したライフステージ</li> <li>②平面図を選択した理由</li> <li>③作成工夫した所</li> <li>※実物投影機、モニター、スクリーン</li> <li>●各グループの発表を見て、改善した方がよい点について自分の考えをまとめ、Googleフォームに入力する。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>ICT端末の活用</b></p> <p>【生徒の主体性を促すための教師の助言例2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定したライフステージを生活するために、必要な家具や設備には何があるか。</li> <li>・防犯面や安全面等の問題点や課題点はないか。</li> <li>・学習した内容を生かし、現状よりも更に安全で快適に過ごすための工夫はできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■【主体的に学びに取り組む態度】</li> <li>・自らの住生活について振り返り、よりよくするための改善策を検討しようとしている。</li> </ul> <p>→Googleフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■【思考・判断・表現】</li> <li>・ライフステージと住環境、安全や環境に配慮した住生活について考察し、工夫している。</li> </ul> <p>→Googleフォーム</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他者の意見を基に、ライフステージに合った適切な住生活環境について、考えを深める。</li> </ul>	

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫

本單元における、「指導に生かす評価」の例を次に示す。

(ア) 「住生活の計画」の評価問題における評価例（知識・技術）

自分の将来設計と照らし合わせた初めての一人暮らしを想定させ、住居選択のポイントを踏まえた上で、安全や環境に配慮した快適な間取りとなる住居を構成する平面図について理解しているかを見取る。

この例では、自らの将来設計に見合う住生活を20代の女性一人暮らしとし、その上で安全面等への配慮に関する記述がされている。また、動線や収納スペースなどは適切に配置することができていることから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

「努力を要する」状況（C）と判断される生徒に対しては、自分の将来設計から、どのように暮らしたいのかを考えさせ、その上で自分の住まいに必要な要素をひとつ書き出させ、その要素が含まれた住環境になるよう指導する。

【問題】 はじめての一人暮らしを想定し、その時の住居選択のポイントを決めた上で快適な間取りと家具の配置考慮した間取り図を記入しなさい。

B評価の生徒の記述例



- ★ 評価のポイント
- ・ 自らの将来設計に見合う住生活について考えられているか。
  - ・ ライフスタイルに合わせ、個性を生かした計画になっているか。
  - ・ 動線・動作寸法や収納スペースなどが適切に配置されているか。

- 【生徒が考えた設定】
- ・ 女性一人暮らし
  - ・ 安全面の配慮（防犯）
  - ・ 洋服やバッグ、雑貨等が見えないような工夫

(イ) 「各グループの発表を見て、改善した方が良い」点の記述に対する評価の例（思考・判断・表現）

上記学習指導案において、高齢期のライフステージを設定したグループの発表を見ての記述に対する評価例である。ここでは、ライフステージと住環境、安全や環境に配慮した住生活について考察し、工夫しているかを見取る。

A評価となるポイントに下線

評価	記述例
A	高齢者二人の生活で、二階に寝室などの生活の中心として使っている部屋があるのは、階段の昇り降りをする負担が大きいので、一階を生活の中心にできるような部屋の使い方をしたほうが良いと思う。 また、 <u>起き上がりの時の身体の負担を考慮して、布団をベットに変更して寝室の片付けの負担を減らす工夫や、トイレに近い場所を寝室にすると生活がしやすいと思う。</u>
B	高齢者二人の生活で、寝室が三階にあると毎日の階段の上り下りが大変なので、寝室は一階の方が良い。
C	高齢者の二人暮らしは、大変そうだった。

【C評価の生徒への手立て】  
高齢者にとって生活をする上で、必要な要素と困難な要素を具体的に挙げさせる。他グループの発表内容が、それらの要素をどれだけ満たしていたのかを考えさせる。

(ウ) 振り返りシートの記述欄の例（主体的に学習に取り組む態度）

授業の振り返りの際、ICT端末を活用して自己評価をさせることで、生徒の理解度を即座に把握することができるとともに、教師の授業の改善点についても確認することが可能となる。

また、記述欄を設けることで、生徒が自らの住生活を考察し、改善に意欲的に取り組もうとしているかを見取ることができる。評価A～Cとなるそれぞれの記述例を次に示す。

住生活④ 振り返りシート

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

今回の授業で次のことがどのくらいできたか答えましょう

	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
他の班のいいところを見つけること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
他の班の改善点を見つけること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ライフステージに応じた住居を考えること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
安全や環境に配慮した住居を考えること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

今回の授業を受けて、今後家を選ぶときのような視点で選ぼうと思いますか。具体的な授業でのやりとりと一緒に教えてください。

回答を入力

【自己評価欄】

- ・ 今回の学習活動で学んだこと
- ・ 活動において重視していた点
- ・ 身に付けたい力

→ 教師の授業の改善点について確認することが可能となる。

【記述欄】

学習活動を通して、自分が何を学び何ができるようになったかを振り返らせ、今後どのように生かすのかを明らかにする。

★評価のポイント

二重線：他のグループの発表内容から、見いだした自分の意見  
波線：大切にしたいポイント、今後の展望

【A評価の記述の例】

他グループのオートロックやカメラ付きインターホンのある住居の発表を見て、一人暮らしの女性は防犯面をより意識するべきだということがよく分かった。私も女性であるため、一人暮らしをする際は防犯面に気を使うべきだと考えたし、それに加えて私は、風通しがよく日当たりがよい部屋で外干しができる環境についても譲れない。家を選ぶ際に特にこの2つに注目して選んでいきたい。

〈A評価と判断した理由〉

他のグループの発表内容から、自分の意見を見いだしたエピソードを書いている。また、自分なりに大切にしたいポイントも含め、今後どのような住生活を送っていききたいかが具体的に記述されている。

【B評価の記述の例】

他グループの発表を見て、様々な暮らし方があるということがわかったので、今後の生活の参考にしたい。私は、健康的な生活を送るには、風通しや日当たりのよさが大切であると感じているため、家を探す際はここに着目して選びたいと思う。

〈B評価と判断した理由〉

他グループの発表内容を見た自分の感想を述べている。日常生活を振り返り、自分なりに大切にしたいポイントと今後どのような住生活を送っていききたいかが記述されている。

「B評価」と判断される生徒への手立て

他グループの発表から学んだことを、自分の生活にどのように生かしていくか具体的に考えさせる。

【C評価の記述の例】

今後家を選ぶときには、今日の授業を参考にして選ぼうと思う。

〈C評価と判断した理由〉

他のグループの発表内容から、自分の意見を見いだしたエピソード、自分なりに大切にしたいポイントや今後どのような住生活を送っていききたいかなどが記述されていない。

「C評価」と判断される生徒への手立て

家を選ぶ際に、必要となる要素を具体的に挙げさせる。また、他グループの発表内容が、それらの要素をどれだけ満たしていたのかを考えさせる。